

自然豊かな琵琶湖岸 生き物の楽園

びわ湖岸の環境とラムサール条約

長浜の琵琶湖岸は県内でも有数の美しさを誇ります。中でも、水鳥公園と呼ばれる湖北地域の湖岸には豊かな自然が残っており、魚や水生植物が多く、それを餌とする野鳥たちもたくさん集まって来ます。

この素晴らしい環境を後世に引き継ごうと、1993年に水鳥公園を含んだ琵琶湖がラムサール条約に登録されました。ラムサール条約とは、野鳥（特に水鳥）や湿地の生き物たちが暮らす環境を人間の生活と、うまく調和させようとする国際条約です。

野鳥観察のシーズンが始まります！

多くの水鳥の越冬地となっている野鳥センター前の湖岸には、今、オオヒシクイやコハクチョウ、カモの仲間がぞくぞくと渡って来ており、実に賑やかです。多種多様な鳥達が、たくさん見られるこの時期に、皆さんも野鳥観察を始めませんか。

上手な野鳥観察 こんなところがポイントです！

☆野鳥を観察するのに、一番大切なことは驚かさず、そっと静かに見ることです。警戒しなくなると鳥たちのほうから近付いてくれることもあります。

☆野鳥をじっくり見ていると、餌をとったり、けんかしたりと、いろんな行動がみられます。また、表情も豊かです。

☆野鳥にも1羽1羽に個性があります。よく見ていると模様が若干違ったり、性格が違います。

琵琶湖の環境は、湖岸周辺での活動はもちろんのこと、水源となる山や流れ込む川を、そこで暮らす人々が生活の中で守り、保たれてきました。美しい環境が残るからこそ、数千キロを超えて琵琶湖に飛んで来る渡り鳥たち。

今回は、自然を知るための一つの方法と言われるバードウォッチングについて紹介します。心地良い風が吹く秋。鳥たちと親しむことで、大自然のかわり方について考えてみませんか。

のんびり寝ているものもいれば、せわしなく動き回るものもいたり様々です。そういった違いを見つけて、お気に入りの鳥を観察するのも、おもしろいです。

☆コハクチョウは家族で行動します。灰色のコハクチョウは今年生まれの幼鳥です。幼鳥のまわりに必ず純白の両親がついています。

コハクチョウの家族を見ていると、子どものためにえさ場を空ける親の愛情が垣間見えます。

☆オオヒシクイも家族で行動しますが、専門家でも親と子を見分けるのは至難の業。見分けるポイントには背中模様ですが、なかなか難しいです。それだけに見分けられた時の喜びはひとしお。

ぜひ皆さんもチャレンジしてみてください。



山には空の王者もやってくる オオワシ (国の天然記念物)



15年前から毎年、ロシア（カムチャツカ半島）からはるばる湖北の琵琶湖岸をめざして、1羽だけで飛来してきています。

老齢のメスなので、「山本山のおばあちゃん」とも呼ばれています。

翼を広げると2m40cmの日本最大のワシで、近畿で2羽（湖北と西浅井）しかこない貴重な鳥です。

今年もやってきてくれれば、2月下旬まで見られます。